

ホロコーストにおける市民社会の力・ブルガリアの物語

政府の圧力にも屈せずユダヤ人を守るため奔走したブルガリア市民 1940-1944
ポスター展示

開催期間：2014年4月11日（金）～24日（木） 毎日午前10時から夕方6時まで
開催場所：渋谷区文化総合センター大和田 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町2-3-2 1
主催：駐日ブルガリア大使館
協力：岐阜県八百津町杉原千畝記念館

ポスター展示に伴う講演会（次頁参考）

「命のビザ、遙かなる旅路」～杉原千畝を陰で支えた日本人たち～

講師 北出明（フリーランスライター）

4月22日（火）18:30時から20時まで

会場：学習室1

この展示は、人類の歴史で最大の悲劇のひとつと言われるユダヤ人への迫害に関し、ナチスによる迫害が激しさを増した1930年代から1940年代にかけてのブルガリア政府の政策や、それに対して市民社会がユダヤ人を守るためどのように動いたかを説明したものである。1941年、ブルガリア政府は枢軸国に加盟、国家防衛法を実施し、ユダヤ人迫害に加担する政策を取ったが、ブルガリアの市民社会は自発的なレジスタンスを続け、ユダヤ人を迫害から守ろうと奔走した。1943年には、ブルガリア政府はユダヤ人の国外追放協定に署名し、ユダヤ人迫害は欧州各地で激化したが、ブルガリア市民社会やブルガリア正教会が、数世紀にわたりブルガリアの地に住み現地ブルガリア人の仲間でもあったユダヤ人に対し勇気を持って最後まで友情の手を差し伸べ続けた結果、約45000人のユダヤ人が難を逃れたのであった。このことは、多様性や自由・平等を重んじ、寛容なブルガリアの市民社会を反映しているといえよう。

渋谷区民の皆様にはブルガリアならびにその歴史についての知識を更に深めていただき、また6000人のユダヤ人に「命のビザ」を発給した人道的行為が今日においても歴史の教訓として残る日本人外交官の杉原千畝氏に言及した資料も含むことから、共通の歴史的傾向を理解していただくよい機会になるでしょう。八百津町で生まれ育った杉原千畝氏がリトアニアでの外交官時代に、政府の命令に反してでも、ビザを発給してユダヤ人の命を救った。

杉原千畝氏の誕生100年記念として2000年に故郷の八百津町に「杉原千畝記念館」が建設され、国内外から多くの人々が訪れている。

駐日ブルガリア大使館主催
ホロコーストにおける市民社会の力・ブルガリアの物語
ポスター展示に伴う講演会

「命のビザ、遙かなる旅路」

～杉原千畝を陰で支えた日本人たち～

フリーランス・ライター 北出 明氏 講演会

第二次世界大戦下、ナチスドイツの迫害を受けヨーロッパから逃げてきた約 6000 人のユダヤ難民。「日本のシンドラー」こと杉原千畝が発給した「命のビザ」で日本を経て、アメリカ、カナダ、オーストラリアへと散って行った彼らを日本で助けたのは、当時のジャパン・ツーリスト・ビューロー（現 JTB）の社員だったことや、日本郵船が大きな役割を果たしたことはあまり知られていません。

今回、講師の北出氏が、難民だった方々を訪ねて取材した彼らのその後と、当時の遙かな旅路を支えた日本人についてお話しします。

講演は日本語で行い、スライドやビデオ上映もあります。



北出 明氏プロフィール
1944年三重県上野市（現・伊賀市）生まれ。1966年慶應義塾大学文学部仏文学科卒、国際観光振興機構（JNTO）に就職。2004年JNTO退職。その間、海外はジュネーブ、ダラス、ソウルに駐在。また、90年7月より93年4月まで京都案内所に単身赴任。現在はフリーランス・ライター。著書に『風雪の歌人』（講談社出版サービスセンター）、『釜山港物語』（社会評論社）『命のビザ、遙かなる旅路』（交通新聞社）など他多数。

日時 4月22日（火） 18:30時から20時まで
場所 渋谷区文化総合センター大和田 学習室1
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町2-3-2 1

参加費 無料

申込 駐日ブルガリア共和国大使館

メールアドレス：press.Tokyo@mfa.bg

ファックス 03-3465-1031

定員：70人 お席に限りがありますので、お早目にお申込ください。

氏名：

所属

連絡先：電話番号

メールアドレス



▲取材のきっかけとなったアルバムの中の一枚